

の簡易公  
省略型)  
式で、委  
協会を特  
約を見積  
約を交わ

管内の  
長期的に  
る港湾の  
いて整理  
施策など  
中長期に  
向けた方  
を行うも

025年  
としてい

のを工事  
考し、基  
とに85  
ける方針  
き渡し  
ら適用す  
ンサルタ  
基準(基  
変更はな

下松地区  
19m)上  
日  
・分ら

# 近未来コンクリート研究会 C II 協議会を設置へ AIスランプ予測技術も紹介

正智氏が講師を務め、AIを用いたスランプ予測システム「PresLu mp AI®」の概要を解説。生コン工場のミキサーが回転する際に攪拌羽根に絡むコンクリートの状態をAIが判別してスランプを予測する技術で、講演中もクイズ形式で出題されるなど、AI

技術の高い判別能力が示された。

C協議会の終了に伴う新テーマの模索では、AIの活用も視野に入れていたが、活動期間として見込む2年間でとりまとは困難との判断から、コンクリートの施工性の改善策を様々な視点から検討することで一致

した。主査は引き続き広島工業大学の竹田典典教授とし、次回協議会で課題の抽出を行うとした。

また、広島工業大学の坂本英輔教授を中心に進めている「脱炭素コンクリート技術研究(S)協議会」では、生コンへのフライアッシュ使用について、福井県における使用実績や広工大と県内の生コン協同組合との共同実験結果などを共有。

コンクリートメンテナ  
ンス協会の江良和徳技術  
委員長らによる「RC構  
造物の延命化技術研究  
(M)協議会」では、劣化  
要因としてDEF(遅延  
膨張破壊)とASR(アル  
カリシリカ反応)によ  
る原因推定を行った事例  
の紹介のほか、現在試験  
的に実施している再劣化  
対策、小規模橋梁の簡易  
点検要領(案)などにつ  
いての情報提供が行われ  
た。

次回協議会は12月16日、次々回は2025年2月13日に開催される予定だ。



近未来コンクリート研究会(十河茂幸代表)の3つの協議会と特別講演が20日に広島市中区で開かれ、県外からのオンライン参加を含め各30人程度が出席。「初朝ひび割れ抑制技術研究(C)協議会」の終了に伴い、「C II協議会」を設置することを申し合わせたほか、特別講演「コンクリート製造時のDX技術」も披露された。

この日の特別講演は、太平洋セメント中央研究所研究開発推進部の工藤

「住吉橋補修(6-1)」

タクト

「三基地区下水道改善

か支店、Aは本店を有す

講習会では、同協会の

専任講師・認定講師が公

